

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	--------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 教育指導課地域教育推進室長 竹下 勝 電話番号 0852-22-5738

事務事業の名称	明日のしまねを担うキャリア教育推進事業	
目的	(1) 対象	市町村立小・中学校の児童生徒、県立高校の生徒及び特別支援学校高等部の生徒
	(2) 意図	生徒一人一人が社会人・職業人として自立していくためキャリア教育を推進するとともに県内就職を促進する。
事業概要	<p>職業に従事するために必要な能力を備えた人材の育成や、卒業後に進学する生徒に対し、地域産業の理解や地域課題の発見等を通して、島根の将来を担う人材の育成を図る推進事業を実施する。</p> <p>【市町村対象】 みんなのまちづくりプロジェクト：ふるさと島根を素材とし、学ぶことの意義や学びと社会のつながりを実感できるプロジェクト学習の展開。</p> <p>【県立学校対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働くことを学ぶ事業：産学官と連携し、高校生が県内の働く大人から学ぶ機会の充実を図る。（働くことを見る・聴く事業、インターンシップ事業 等）</li> <li>学びを活かそう事業：産学官と連携し、高校生の学びの充実を図る。（問題解決型学習と学びを活かす出前授業、成果発表会の実施）</li> </ul>	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	県立高校生の県内就職率	目標値	80.0	80.0	82.0	84.0	85.0	%
	式・定義	県内就職内定者/就職内定者×100	取組目標値						
			実績値	74.2					
2	指標名		目標値						%
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	92.8	-	-	-	-	%
			達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	45,640	66,348
うち一般財源(千円)	45,640	38,899

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成27年度まで実施していた「明日のしまねを担う高校生キャリア教育推進事業」、「小中キャリア教育推進事業」を整理・統合し、平成28年度から第2期しまね教育ビジョン21の考え方にそった、小・中・高等学校という縦の連続性を重視した「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」とした。本事業の展開により、市町村立学校と県立学校のつながりを強化した取組となる。

平成27年度の県内学校の取組状況は以下の通り。

- ①インターンシップ：1,025事業所の協力を得、28校で実施。
- ②企業見学：352事業所の協力を得、延べ4,896人が見学。
- ③職業意識啓発セミナー：248人の講師の協力を得、延べ4,868人が受講。
- ④問題解決型学習：地域や企業と連携し、30校で80テーマの研究を実施。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 専門高校だけでなく、普通科高校においても就職希望者を対象としてインターンシップを実施したり、企業見学を実施したりする学校が増えてきた。
- 普通科高校において地域の課題解決型学習に取り組むことにより、生徒の学習意欲や地域理解の向上につながることで、教員に認識され始めた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
  - 普通科高校における地域の課題解決型の学習に対する取組の有効性の理解は進んだが、実施校の大幅な増加にはつながっていない。
  - 高校生に、高校での学びが小・中学校の学びの延長であり、かつ社会へつながるといった連続性の意識が薄い。
- ②困っている状況が発生している「原因」
  - 普通科高校においては、カリキュラム編成上、課題研究や体験を中心とした活動に充てる時間が少なく、その確保が難しいと推察される。
  - 市町村立学校と県立学校の連携が不十分である。
- ③原因を解消するための「課題」
  - 普通科高校においてインターンシップ等の体験活動が実施しやすいように、限られた時間を工夫して、学校の年間計画に位置付ける。
  - 小中学生の意識の向上
  - 地域の連絡協議会等を活用し、キャリア教育について連携が図られるよう取り組む。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 県立高校に在籍する生徒の地域貢献に対する意識や自立に関する意識について把握するために、第1学年・第3学年を対象とした「キャリア教育アンケート」を実施し、各校の生徒の実態、地域の実態に応じた効果的なキャリア教育の取組の参考とする。
- 高校生の学ぶことの意義理解を進めるために、学びを活かす場としての課題解決型学習を引き続き推進していく。さらに、成果発表の場を校内から地域や地元の小・中学校に広げ、高校生が学びの有用性を実感できる機会とするとともに、市町村立学校と県立学校の連携促進の一助とする。
- 主に普通科高校の進学者の県内企業の理解促進を目的として、進学者対象の県内合同企業セミナーを開催する。

## 9. 追加評価（任意記載）

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。